

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 幅広い知識と教養を身に付け、多角的・多面的な視点で物事をとらえる生徒の育成 2 自ら課題を発見し、解決に向け主体的に考え行動し、社会の発展に寄与する生徒の育成 3 自他を尊び、多様な考えを柔軟に受け入れながら、自己の考えを深め、発信する生徒の育成
------------	---

学校整理番号	8
学校名	青森県立弘前中央高等学校
全日制の課程	本校

(2) 現状と課題	「校訓『自律 誠実 進取』のもと、生徒の知性と品性の涵養に努め、保護者・地域社会から信頼される教育活動に努める」を学校経営方針とし、(3)の重点目標に沿って教育活動に取り組んでいる。本校生徒の特徴として、おとなしくまじめな生徒が多い一方で、やや積極性に欠け、困難を避けたがる傾向がみられる。よって、学習活動、特別活動、部活動等、何事にも積極的取り組み、困難に直面してもそれに負けない生徒を育成したい。
-----------	--

自己評価実施日	令和7年12月4日(木)
学校関係者評価実施日	令和8年2月2日(月)

(3) 重点目標	1 学習指導の充実 (授業改善、自信を育む教育の推進)
	2 生徒指導の充実 (校則及び指導の適正化、教育相談の充実、学校行事を通じた人間関係の構築)
	3 進路指導の充実 (入学から卒業までの進路指導の体系化、教員による大学研究・入試問題研究・他校視察の推進)
	4 リスクマネジメント (生徒が安心できる教育環境の整備、教職員の危機管理意識の共有・高揚、服務規律の徹底)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員5名 (内訳：地域有識者、地域学識者、同窓会、後援会、PTA)

(4) 結果の公表	職員会議への資料提示並びに学校ホームページへの掲載
-----------	---------------------------

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	教育課程の評価や見直しを定期的 に実施 研修の計画及び実施 ICTを活用した授業実践	①授業改善推進プロジェクトで議論 ②校内研修の参加促進、校内研修案 内の通知徹底 ③互見授業、研究授 業の実施	①プロジェクトの会議開催はなかったが、教務主 任と各教科主任が密に連携し、教育課程に関する 議論を行った。②よく行われた。③参観者からの 意見を授業者にしっかりフィードバックした。	A	タブレット端末の利用率がかなり高く、ど の授業でも活用されている。生徒も使いこ なしているため、更に効果的な活用につい て研究してほしい。	中教審での議論を注視し、教育課程の変更の 是非について話し合いを始める。
2	校則の見直しと共通理解 スクールカウンセラーの活用 生徒会の活発な活動による学校行 事の計画と実施	①生徒の意見を反映させた校則に関 する見直しの提案 ②スクールカウ ンセラー同席の生徒理解研修の実施 ③行事計画作成の早期着手	①いくつかの校則を見直し、生徒間でも教員間 でも共通理解がなされた。②計画どおり研修を実施 できたほか、相談件数も多かった。③早期から取 り組むことができた。	A	生徒理解研修に全教員が参加して理解を深 めていることは大変良い。行事が集中する 時期があり、早期からの準備もすばらし い。	スクールカウンセラーとの連携は大変効果的 に進めることができています。関係性を継続 し、適時適切な相談の実施に努める。また、 学校への常駐化についても要望する。
3	進路情報の積極的な収集と適切な 提供 外部講師の活用 進路検討会議の実施	①模試主催者からの情報収集と大 学主催の入試説明会への参加 ②進 路講演会、大学模擬講義の実施 ③ 正確な資料の準備と円滑な会議の実 施	①活発に情報収集することができた。②講演会は 外部講師のほか、進路指導主事の講話も増やし た。大学模擬講義には例年と同規模での開催がで きた。③滞りなく実施できた。	A	面接や小論文の指導は手厚くしている。難 関大、超難関大に挑戦する生徒のためにも 、先生方の研鑽が大事であると思うの で、研修や指圧の機会も維持してほしい。	年々増加傾向にある総合型・学校推薦型選抜 への対応について、遅滞なく取り組む必要が ある。生徒の志望を早めに聞き、担当者の割 り当てをスムーズに行う。
4	施設設備の安全点検 危機管理マニュアル、学校保健マ ニュアルの整備 生徒の怪我、病気への対応	①毎月1回の施設設備の安全点検の実 施 ②各マニュアルのアップデート ③AED講習会の実施	①確実に実施できた。②内容の見直し及び更新を 行った。また、新たにクマ出没時の対応について 記載した。③AED使用法、エビペンの使用法、 担架等の位置確認を実施した。	A	地震発生時及び悪天候時、BLEND(連絡ツ ール)を使った迅速な連絡がなされ、高評価 である。保護者による車での送迎に関する マナー遵守について周知をお願いする。	自転車用ヘルメットの装着率が低い。さま ざまな機を捉えて着用率向上を働きかける。

(11) 総括	各分掌において、緻密な計画作成とともに変更への柔軟な対応がなされ、目標の達成度はどれも高い。 次期学習指導要領の改訂に向けた動きが活発になってきているほか、さまざまな分野でアップデートが進んでいる現状において、それらの情報を貪欲に収集し、変化に乗り遅れることがないように準備を進めていかなければならない。今年度よりもさらに一段高い目標を設定することも必要になる。
---------	--